

## 高圧用地絡方向継電器 SHG 形

### 動作電圧試験に関して（補足説明資料）

2003年8月

泰和電気工業株式会社

承認	起草
	

#### 1. 背景

高圧用地絡方向継電器 SHG 形は、機能の健全性を確認するため定期的に、電流・電圧を印加して動作確認を行っていただくことをお願いしております。

動作電圧確認試験において、試験器との接続方法によっては、動作電圧値が変動することがありますので、本補足説明資料にて説明しております。

なお通常の試験方法に関しては、取扱説明書に記載しておりますのでそちらを参照してください。

#### 2. 接続回路

通常動作電圧試験を行う場合の試験回路接続例を図 1 に示します。継電器の  $V_0$  要素の動作を確認する場合は、ZPD の端子 T と端子 E の間に試験電圧  $V_0$  を印加します。

図 1. は機能説明のため ZPD を 1 相分のみ記載していますが、実際の回路は 3 相となります。

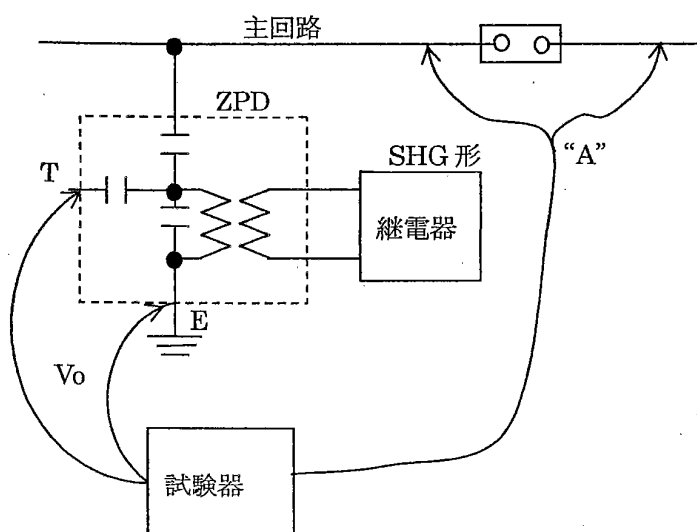


図 1. SHG 形継電器試験回路接続例

#### 3. 感度電圧が変化する場合

$V_0$  電圧を印加する際、CB の動作時間を確認するために試験器からの配線“A”が接続されていると、継電器へ導入される電圧は、 $V_0$  と“A”に印加されている電圧が ZPD にて合成された電圧となります。試験器のタイプにより“A”の電圧が高い（たとえば 100V 程度）場合は、継電器の動作電圧に大きく影響することとなります。

#### 4. まとめ

$V_0$  要素の動作確認電圧を測定する場合に、主回路側に試験電源が別ルートから印加されていると、動作電圧が大きく変動することがありますので、“A”の電圧が高いタイプの試験器をお使いの場合は、電圧測定に際してご留意いただくようお願いいたします。